

含層が存在したようで、昭和40年代に若狭考古学研究会によって縄文後期末の10点ほどの土器片が採集されたことが森川昌和氏らによって報告された[網谷・森川 1986]。これらの資料については、近年、美浜町の自治体誌にあたる『わかさ美浜町誌』の編纂事業の中で網谷克彦氏によって詳細な検討が加えられ[網谷 2009]、深鉢、浅鉢、注口土器など約70点の土器について、縄文早期末の条痕文土器を含みながらも宮滝式後半期から滋賀里I式の土器が主体をなすものとして位置づけられた。また、平成10・11年(1998・1999)に美浜町教育委員会が実施した町内遺跡分布調査において6世紀後半から8世紀にかけての須恵器、土師器、製塩土器などの土器片が採集され、古代集落あるいは土器製塩遺跡の存在も考えられるようになった。

なお、下田遺跡という遺跡名称について、従来、金瀬川河口部両岸に広がる遺跡が今市遺跡と総称されており、森川氏らの報告があった時点では金瀬川右岸に所在する今市遺跡の一部として知られていた。しかし、平成12年(2000)の『福井県遺跡地図』の改訂において金瀬川河口部の右岸に所在する部分が下田遺跡、左岸に所在する部分が今市遺跡と再周知された。つまり、従前の今市遺跡とは現在の下田遺跡と今市遺跡とを指している。

第2節 調査の経過、方法および内容

第1項 調査の経緯と経過

調査地の地番は、福井県三方郡美浜町佐田79号1番地。調査地は遺跡の西縁部に位置し、地形的には調査地のすぐ南々西に段丘崖が位置する。調査地の現況は造成地である。

今回の調査は民間事業者による建物新築工事計画に伴う試掘調査依頼に基づくものである。建築物の構造、建築時期等の事業計画の詳細が未決定であったため、存否確認のための試掘調査を実施し、建築物の位置、構造、基礎工法などは試掘調査の結果に基づいて設計されることとなった。

調査は敷地面積502㎡に対して1箇所のトレンチを設定した。トレンチの規模は、北西-南東の方向に長さ20.0m、幅1.4m、調査面積28.0㎡である。調査は平成19年7月9・10日に実施した。

第2項 調査の方法

トレンチの掘り下げは重機を使用して造成土、旧耕作土を除去し、地山面において人力による精査を実施した。調査平面図・土層断面図は1/20の縮尺で作成したが、調査地への水準点の移設は行っていないため、土層断面図は地表面の標高を基準として作成した。写真撮影は35mmモノクロフィルム、35mmリバーサルフィルムを使用し、調査の各段階で撮影した。

第3項 調査の内容

A. 基本層序

地表面の標高は10m前後。調査地の基本層序は、上層から造成土である砂礫土(層厚0.4~1.0m)、灰褐色砂礫土(層厚0.1m前後)、旧耕作土である褐灰色土(層厚0.1m前後)、暗褐色砂礫土(層厚0.2m前後)を経て、地山層である褐色粘土層の上面に至る。旧耕作土の上面はトレンチ北西部の地表面から約0.4m下に分布し、地山層の上面は同じく0.6~0.7m下に分布するが、トレンチ南東側に向かって標高を減じ、トレンチ南東部の地山面は地表面からは0.8m下に分布する。

B. 検出遺構

地山面である褐色粘土層の上面で遺構検出を行ったところ、トレンチ北西側で土坑2基が検出された。

土坑1(SK1)は幅7mほどの溝状に検出され、土坑全体の平面形は不明であるが、方形となるものと思われる。東西幅約6.4m、底面までの深さは検出面から0.1~0.2mであるが、地山面の直上に旧耕作土が分布してお

り、遺構自体が一定の削平を受けているものと考えられる。土坑の断面形状は箱型で、底面は平坦である。埋土に暗褐色粘質土をもつ。土坑西端の底面から製塩土器細片十数点が出土し、焼土が分布する。

土坑2 (SK2) の平面形態は円形で、径0.9m以上である。未掘削のため、底面までの深さ、断面形状は不明。

C. 出土遺物

土坑1出土の製塩土器は細片で図化し得ないが、赤褐色、橙色を呈し、器壁は1cmほどと厚く、外面に輪積み痕を残す。

第3節 総括

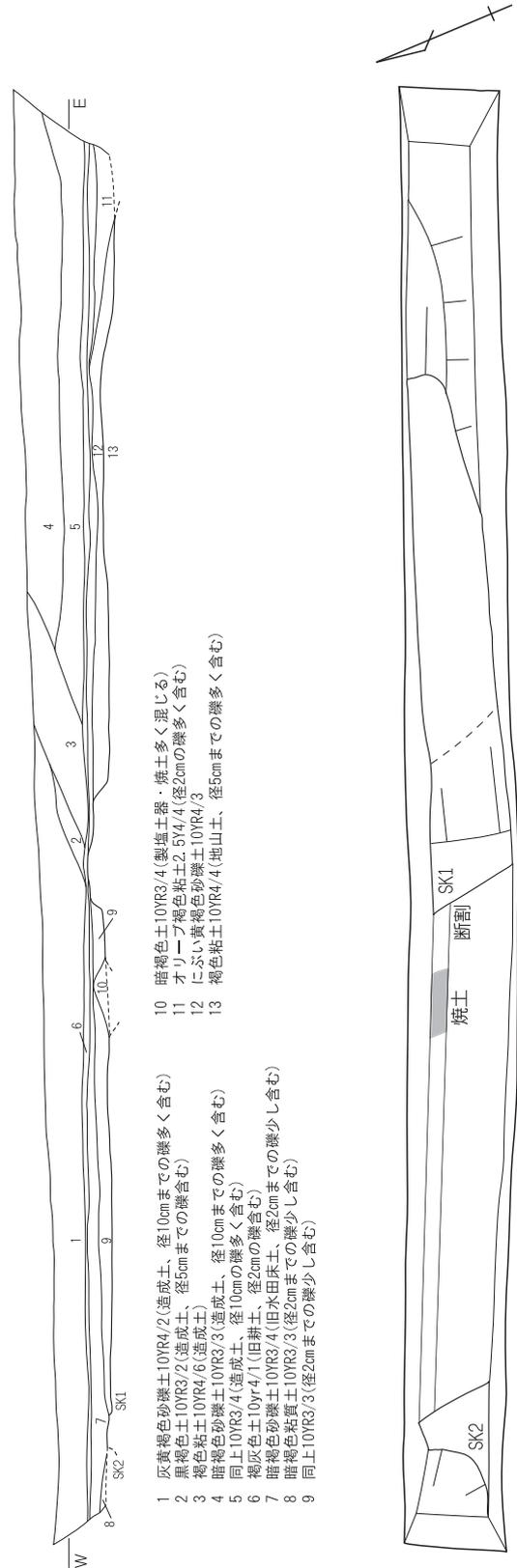
これまで知られていた縄文時代に伴う遺構、遺物は確認されなかったが、古代に伴う遺構、遺物が確認された。

トレンチの南東側に向かって地山面の標高の低下が見られ、トレンチ南東端では急激に地山面が落ち込む状況が確認されたが、調査中に来跡された古老からの聞き取りによると、造成前はトレンチ外のさらに南東側で急激に地表面が低下する自然地形であったようで、調査内容と符合している。このことから考えれば、調査地は西側に金瀬川を臨む下田遺跡の西縁部に相当するものと考えられ、遺跡の中心はトレンチの南西側からさらに北側に展開しているものと考えられる。

検出遺構の性格ははっきりしないが、土坑1は須恵器、土師器を伴わず、また規模も竪穴建物跡としては大型で、焼土、製塩土器の出土から見て土器製塩に関連する遺構である可能性も考えられる。ただし、調査地は汀線から距離もあり、土坑1は土器製塩遺跡で通有して見られる石敷きを伴う製塩炉とは異なる構造である。煎熬の過程というよりも焼塩の過程で使用された遺構の一部であることも考慮しておく必要がある。出土した製塩土器に全体の器形をうかがえるものは少ないが、あえて復元すれば浜瀬ⅡB 新式に類する丸底深碗形を呈するものである。ただし、この器形が7世紀以後、8世紀まで残存する可能性を考えれば、その年代を明確にすることは難しい。

〔引用・参考文献〕

網谷克彦・森川昌和「44 今市遺跡」『福井県史』資料編13 考古 1986 福井県
網谷克彦「第一部 考古編 第二章 美浜の縄文時代」『わかさ美浜町誌』第六巻 掘る・使う 2009 美浜町



第132 図 下田遺跡試掘調査トレンチ平面・土層断面図 (縮尺 1/100)

第3章 毛ノ鼻遺跡 (試掘調査)

第1節 遺跡の概要

毛ノ鼻遺跡(福井県遺跡番号30034)は北緯35度37分38秒、東経135度59分2秒付近、福井県三方郡美浜町佐田小字毛ノ鼻他に所在する。遺跡は南側の山間部から派生する低台地面に立地し、遺跡から国道27号線を挟んだ北西側、敦賀半島基部の西岸に分布する海岸段丘面には縄文時代、古墳時代から古代にかけての複合遺跡である下田遺跡が立地し、北東側の芳春寺山(標高145.5m)から北側に派生する支尾根上には弥生時代の石器が採集されている芳春寺山遺跡と経塚の芳春寺山経塚が立地する。毛ノ鼻遺跡自体は表採遺物の内容からこれまで弥生時代から中世まで続く複合遺跡と考えられているが、発掘調査事例はなく、弥生中期と思われる磨製石鏃1点の出土が山口充氏によって報告されるに留まっている[山口1984]。



第133図 毛ノ鼻遺跡調査位置図(縮尺1/2,500)

第2節 調査の経過、方法および内容

第1項 調査の経緯と経過

調査地の地番は福井県三方郡美浜町佐田 68 号 52-1、53-1 番地。調査地は遺跡中心部のやや北寄りに位置し、地形的には低台地面の西縁部付近にあたり、調査地の西側から台地面が緩やかに傾斜を始める地形変換点にあたる。調査地の現況は造成地である。

今回の調査は民間事業者による建物（社屋兼倉庫）建替工事計画に伴う文化財保護法第 93 条に基づく埋蔵文化財発掘届出書の提出（平成 19 年 7 月 25 日付）および試掘調査依頼に基づくものである。表層改良を伴う基礎掘削が地表面から 2 m まで及ぶことから存否確認のための試掘調査を実施することとなった。

調査は建築面積 318 m²に対して、7 箇所の特レンチを設定した。特レンチの規模は、東西、南北ともに 2 m 角を基本として、適宜、格子状に配置した。調査面積 28.0 m²である。調査は平成 19 年 7 月 10・11 日に実施した。

第2項 調査の方法

毛ノ鼻遺跡では、今回の調査地の南西約 160m の地点で個人住宅新築に伴う試掘調査が平成 18 年度に実施されており、地表面下 1.0m 前後において明黄褐色土からなる地山層が確認されている。このため、調査区の掘り下げは重機を使用して造成土、あるいは旧表土を除去し、地山面において人力による精査を実施した。特レンチ平面図は 1/100、土層断面図は 1/20 の縮尺で作成したが、調査地への水準点の移設は行っていないため、土層断面図は地表面の標高を基準として作成した。写真撮影は 35 mm モノクロフィルム、35 mm リバーサルフィルムを使用し、調査の各段階で撮影した。

第3項 調査の内容

A. 基本層序

地表面の標高は 16m 前後。2、3、6、7 特レンチで確認された土層を調査地の基本層序として、上層から造成土である砂礫土（層厚 1.0m 前後）、旧表土である黒褐色粘土（層厚 0.2～0.3m）を経て、そして地山面となる砂礫が混じる褐色粘土層の上面に至る。南西約 160m の地点での試掘調査時に確認された層序と基本的には符合するが、事業予定地の南北部にあたる 1、4、5 特レンチにおいては土地造成による掘削が深くまで及んでおり、旧表土の黒褐色粘土層や地山層の褐色粘土層は既に削平され、失われていた。

B. 検出遺構・出土遺物

2、3、6、7 特レンチで確認された地山面の褐色粘土層上面で遺構検出を行ったが、遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。

第3節 総括

調査地は低台地面の西縁にあたり、周辺での既往の試掘調査の内容を踏まえても付近に遺構、遺物が存在する可能性は低い。遺跡の中心は調査地から南東側に位置しているものと考えられる。

〔引用・参考文献〕

山口充「美浜町内出土の後期弥生式土器と土師器」『福井考古学会会誌』第 2 号 1984 福井考古学会

第4章 竜沢寺遺跡（試掘調査）

第1節 遺跡の概要

竜沢寺遺跡（福井県遺跡番号 30092）は北緯 35 度 35 分 46 秒、東経 135 度 54 分 48 秒付近、福井県三方郡美浜町金山小字野寺他に位置する。遺跡は南方の山間部から舌状に延びる中位段丘面に立地し、小開析谷を挟んで北側には口背湖遺跡が立地する。口背湖遺跡は土地改良事業に伴い、昭和 52 年（1977）、美浜町教育委員会、若狭考古学研究会による発掘調査が実施され、古墳時代初頭の竪穴式住居址 2 棟が検出されるとともに、土師器甕、壺、高杯、砥石などが出土している[入江 1986・仁科 2009]。

竜沢寺遺跡では遺跡西縁部において美浜町教育委員会によるいくつかの調査事例がある。平成 3 年（1991）、別荘建築工事に伴う試掘調査が実施され、若干の弥生土器片、土師器片が出土した。翌年、平成 4 年（1992）にも近接地で別荘建築工事に伴う試掘調査が実施され、古墳時代初頭に帰属すると思われる竪穴式住居址 1 棟が検出された。平成 6 年（1994）、社会福祉施設建築計画に伴う試掘調査においては若干の土器片が出土するに留まったが、平成 13 年（2001）、この社会福祉施設の北東側への増築計画に伴う試掘調査で遺構、遺物が確認されたことから、同年、303 m²を対象に発掘調査が実施され、土坑 16 基、小穴 36 基を検出するとともに、弥生後期の甕形土器、壺形土器、ミニチュア土器、摩石が若干出土した[美浜町教育委員会 2003]。

遺跡西縁部におけるこれらの調査結果から、さらに北側の段丘中心部に向かって弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての集落遺構が展開しているものと考えられる。

第2節 調査の経過、方法および内容

第1項 調査の経緯と経過

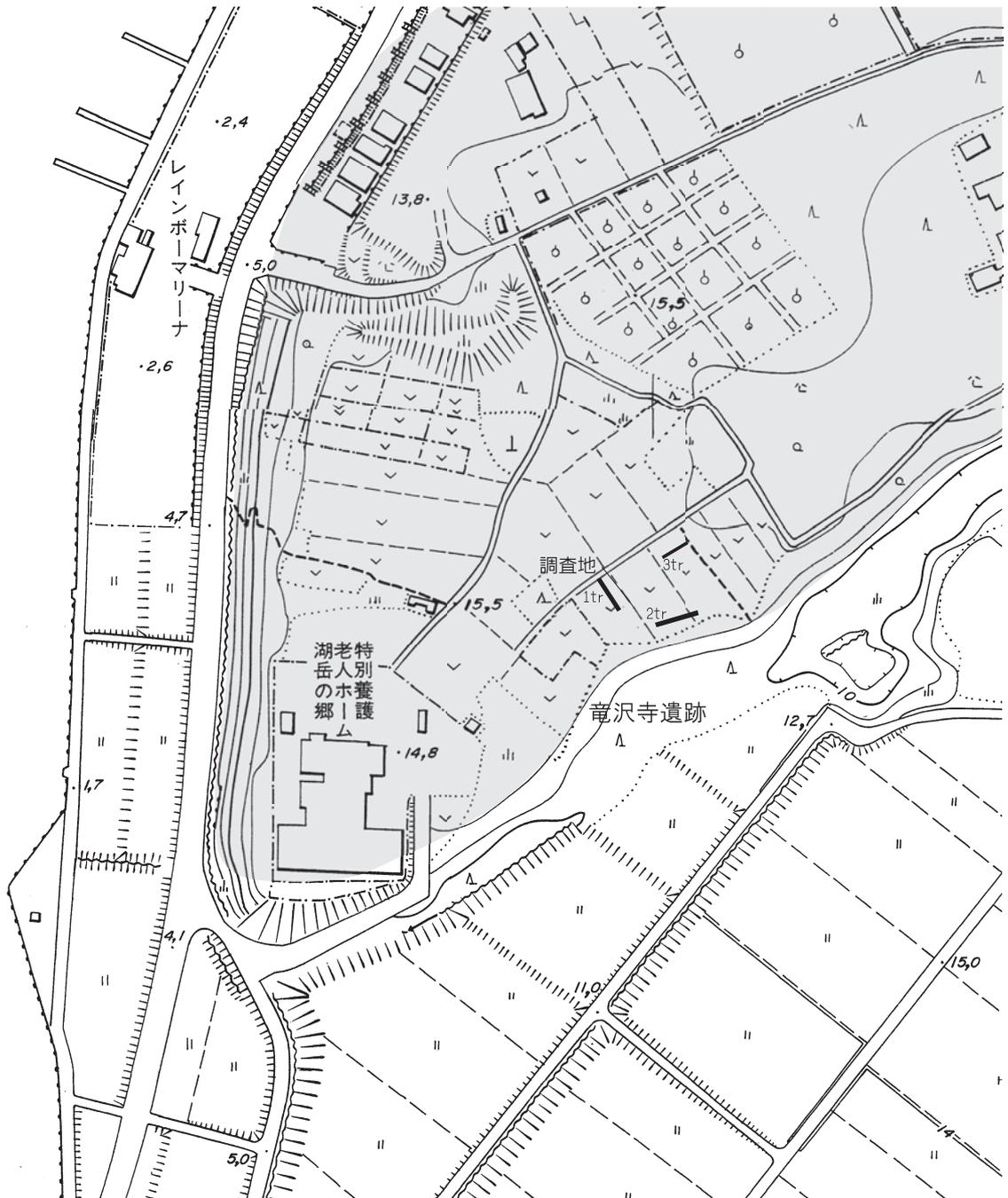
調査地の地番は福井県三方郡美浜町金山 2 号 3-11~19 番地。調査地は遺跡の南東縁部に位置し、地形的には調査地のすぐ南東に段丘崖が位置する。調査地の現況は畑地である。

今回の調査は社会福祉法人による建物（社会福祉施設）増築工事計画に伴う試掘調査依頼に基づくものである。建築物の基礎工法および掘削深度が未確定である中、これまでの発掘調査、試掘調査では表土直下で地山面が確認されていることから存否確認のための試掘調査を実施することとなった。

調査は敷地面積 2,500 m²、建築予定面積 853 m²に対して、予定敷地内の中の未耕作地 3 箇所のトレンチを設定した。トレンチの規模は、トレンチの規模は 1 トレンチ東西 10m、幅 1.0m、2 トレンチ南北 14m、幅 1.0m、3 トレンチ東西 16m、幅 1.0m。調査面積 40.0 m²である。調査は平成 19 年 7 月 12・13 日に実施した。

第2項 調査の方法

竜沢寺遺跡では、前述のとおり表土直下、地表面から数十cmほどで黄褐色土からなる地山層が確認されているため、調査区の掘り下げは重機を使用して畑地の耕作土を除去し、地山面において人力による精査を実施した。トレンチ平面図・土層断面図は 1/20 の縮尺で作成したが、調査地への水準点の移設は行っていないため、土層断面図は地表面の標高を基準として作成した。写真撮影は 35 mmモノクロフィルム、35 mmリバーサルフィルムを使用し、調査の各段階で撮影した。



第134図 竜沢寺遺跡調査位置図 (縮尺 1/2,500)

第3項 調査の内容

A. 基本層序

地表面の標高は約 15.5m。調査地の基本層序は、上層から現在の耕作土である暗褐色土 (層厚 0.2~0.3m) 下、地山層である褐色粘土層、淡黄褐色砂質土の上面に至る。

B. 検出遺構・出土遺物

地山面の褐色粘土層上面で遺構検出を行ったが、遺構は検出されず、遺物は出土しなかった。

第3節 総括

調査地は段丘の南東縁にあたり、周辺での既往の試掘調査の内容を踏まえても付近に遺構、遺物が存在する可能性はあまり高くない。付近の畑地の耕作土の土器片の散布状況を見ると、遺跡の中心は調査地から北西側に位置しているものと考えられる。

〔引用・参考文献〕

美浜町教育委員会『美浜町内遺跡発掘調査報告書Ⅰ』 2003



興道寺廃寺周辺空中写真（真上から撮影）



第11次調査5トレンチ全景（北から撮影）



再建期金堂基壇北側堆積層遺物出土状況1
（第11次調査5トレンチ）



再建期金堂基壇北側堆積層遺物出土状況2
（第11次調査5トレンチ）



再建期金堂基壇北側堆積層遺物出土状況3
（第11次調査5トレンチ）



再建期金堂基壇北側堆積層遺物出土状況4
（第11次調査5トレンチ）



再建期金堂基壇北側堆積層土層断面・遺物出土状況5
（第11次調査5トレンチ）



再建期金堂基壇北側堆積層塑像螺髪出土状況1
（第11次調査5トレンチ）



再建期金堂基壇北面階段（第11次調査5トレンチ）



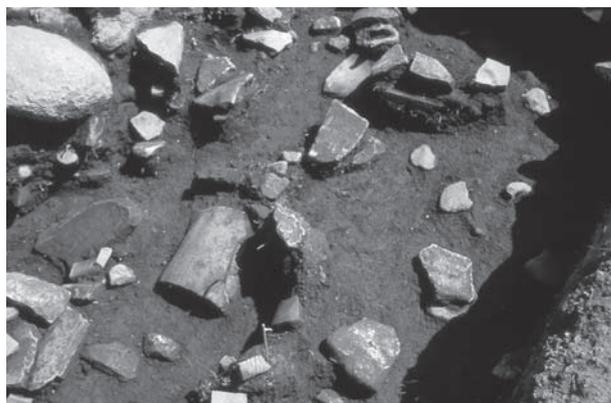
再建期金堂基壇北側整地面断割南北土層断面
(第11次調査5トレンチ)



第12次調査6トレンチ全景(北から撮影)



再建期金堂基壇北面階段・再建期講堂基壇南辺位置関係
(第12次調査6・7トレンチ)



再建期金堂基壇北側堆積層塑像螺髪出土状況2
(第12次調査7トレンチ)



再建期金堂基壇東辺1(第10次調査5トレンチ)



再建期金堂基壇東辺2(第10次調査5トレンチ)



創建期・再建期金堂基壇断割東西土層断面1
(第10次調査5トレンチ)



創建期・再建期金堂基壇断割東西土層断面2
(第10次調査5トレンチ)



創建期金堂基壇断掘東西土層断面 (第10次調査5トレンチ)



創建期・再建期金堂基壇整地面断割東西土層断面
(第10次調査5トレンチ)



第11次調査6トレンチ全景 (西から撮影)



再建期金堂基壇西辺 (第11次調査6トレンチ)



再建期金堂基壇北西整地面 (第10次調査6トレンチ)



再建期金堂基壇北西石列 (第10次調査6トレンチ)



第10次調査4トレンチ全景 (西から撮影)



SD100401 (第10次調査4トレンチ)



再建期金堂基壇南西整地面断割(SD100401)南北土層断面1
(第10次調査4トレンチ)



再建期金堂基壇南西整地面断割(SD100401)南北土層断面2
(第10次調査4トレンチ)



創建期・再建期塔基壇東辺(第11次調査4トレンチ)



創建期・再建期塔基壇(第11次調査3・4トレンチ)



再建期塔基壇西辺1 (第11次調査4トレンチ)



再建期塔基壇西辺2 (第11次調査4トレンチ)



再建期塔基壇西辺3 (第11次調査3・4トレンチ)



P110402・P110406 (第11次調査04トレンチ)



P110409 (第11次調査4トレンチ)



SK110401 (第11次調査4トレンチ)



SK110401 塑像螺髪出土状況 (第11次調査4トレンチ)



再建期塔基壇東側堆積層土層断面 (第11次調査4トレンチ)



創建期・再建期塔基壇東西土層断面1 (第11次調査4トレンチ)



創建期・再建期塔基壇東西土層断面2 (第11次調査4トレンチ)



創建期・再建期塔基壇東西土層断面3 (第11次調査4トレンチ)



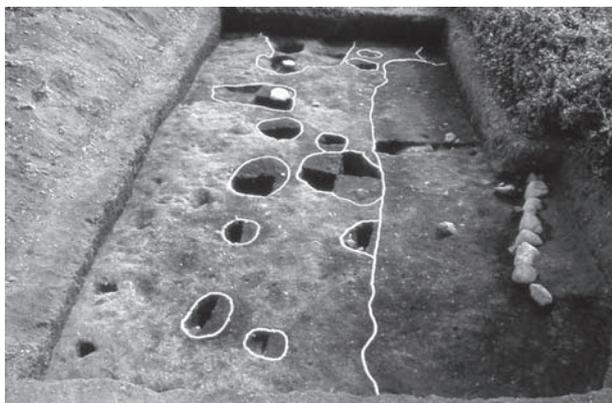
第11次調査3トレンチ全景 (南から撮影)



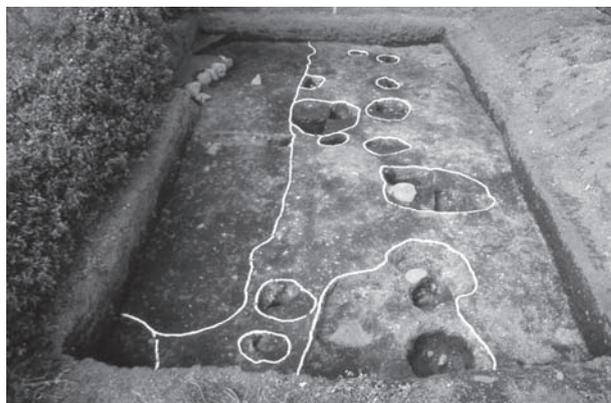
SD110301 南北土層断面 (第11次調査3トレンチ)



SK110301 土層断面 (第11次調査3トレンチ)



第9次調査2トレンチ (北から撮影)



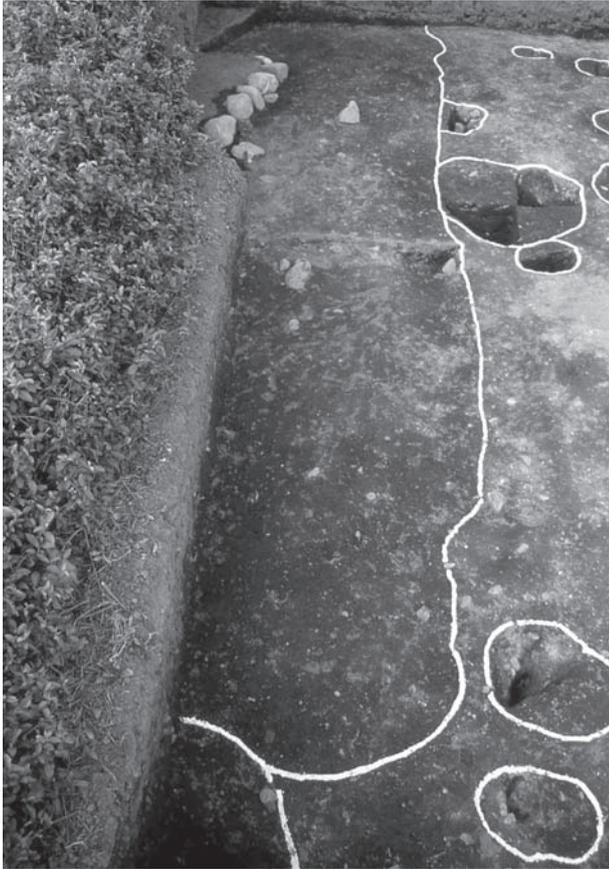
第9次調査2トレンチ (南から撮影)



再建期中門基壇北東隅部 (第9次調査2トレンチ)



再建期中門基壇北東隅部東辺石積み (第9次調査2トレンチ)



SK090204 (第9次調査2トレンチ)



再建期中門基壇西側整地面 (第9次調査1トレンチ)



再建期中門基壇西側堆積層遺物出土状況
(第9次調査1トレンチ)



再建期中門基壇西側整地面断割土層断面
(第9次調査1トレンチ)



第12次調査1トレンチ全景 (北から撮影)



再建期中門基壇北西側整地面断割南北土層断面
(第12次調査1トレンチ)



SD110101・再建期整地面 (第11次調査1トレンチ)



再建期中門基壇西側攪乱坑 (第11次調査1トレンチ)



SD110101 検出状況 (第11次調査1トレンチ)



SD110101 (第11次1トレンチ)



SD110101・再建期整地面断割南北土層断面
(第11次調査1トレンチ)



再建期中門基壇西側整地面断割土層断面
(第11次調査1トレンチ)



再建期中門基壇北側南北土層断面 (第11次調査2トレンチ)



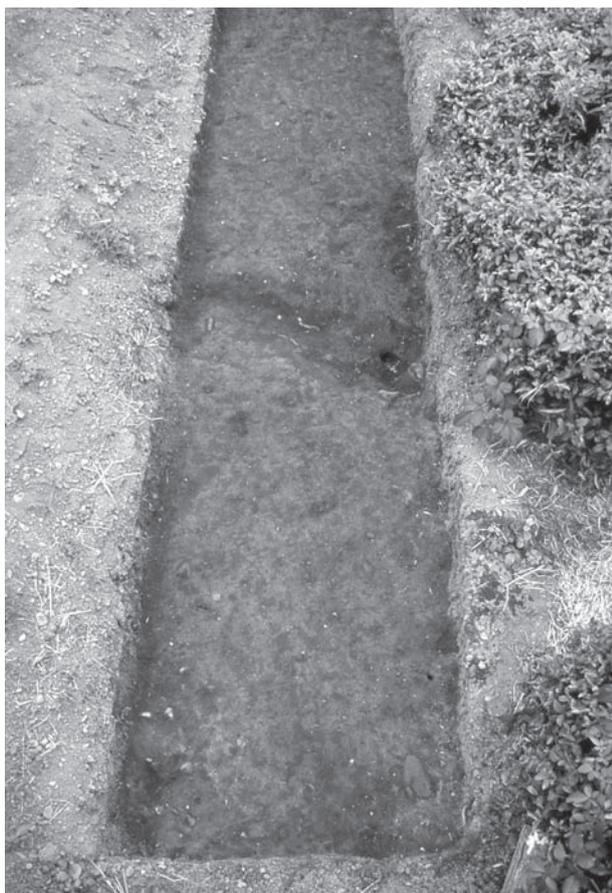
再建期中門基壇北側東西土層断面 (第11次調査2トレンチ)



第12次調査5トレンチ全景 (北から撮影)



SK120501 土層断面 (第12次調査5トレンチ)



創建期講堂基壇東辺 (第11次調査13トレンチ)



創建期講堂基壇西辺付近 (第11次調査13トレンチ)



創建期講堂基壇南辺 (第11次調査5・13トレンチ)



SD111101 土層断面 (第11次調査13トレンチ)



第12次調査7トレンチ全景 (南から撮影)



再建期講堂基壇南辺 (第12次調査7トレンチ)



再建期講堂基壇南辺断割南北土層断面1
(第12次調査7トレンチ)



再建期講堂基壇南辺断割南北土層断面2
(第12次調査7トレンチ)



第13次調査2トレンチ全景 (南西から撮影)



再建期講堂基壇南西隅部 (第13次調査2トレンチ)



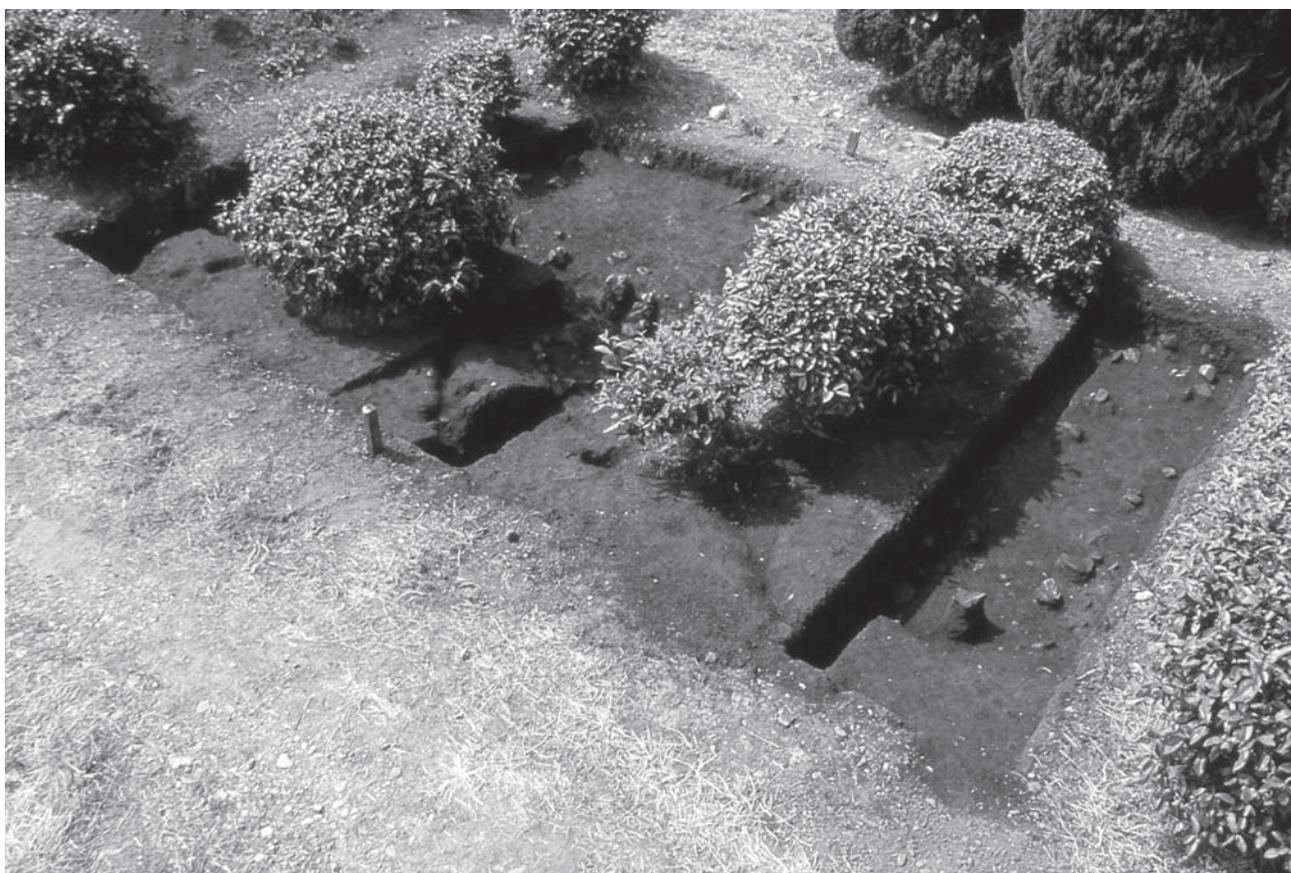
再建期講堂基壇西辺東西土層断面 (第13次調査2トレンチ)



創建期・再建期講堂基壇西辺断割東西土層断面
(第13次調査2トレンチ)



創建期・再建期講堂基壇西辺断割 (第13次調査2トレンチ)



創建期講堂基壇北辺 (第12次調査8トレンチ)



創建期講堂基壇北辺断割南北土層断面1
(第12次調査8トレンチ)



創建期講堂基壇北辺断割南北土層断面2
(第12次調査8トレンチ)



第11次調査2トレンチ西側 (北から撮影)



第11次調査2トレンチ南側 (東から撮影)



SH110201 (第11次調査2トレンチ)



SK110202 (第11次調査2トレンチ)



SK110202 遺物出土状況 (第11次調査2トレンチ)



第9次調査3トレンチ全景
(北から)



第9次調査4トレンチ全景（北から撮影）



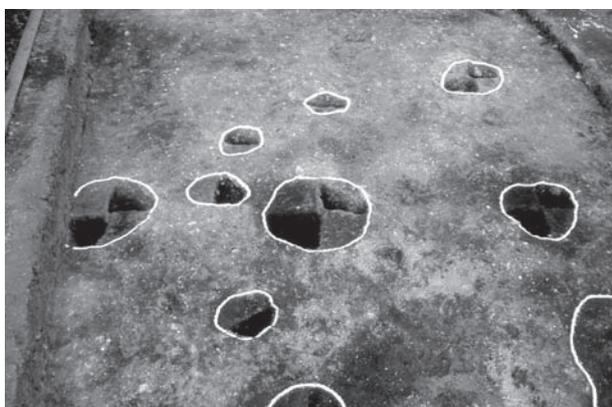
SB090401（第9次調査4トレンチ）



SB090401 土層断面（第9次調査4トレンチ）



SB090401 遺物出土状況（第9次調査4トレンチ）



SA090401（第9次調査4トレンチ）



SK090401 土層断面（第9次調査4トレンチ）



第10次調査1トレンチ北側（南から撮影）



SB100101・SB100201（第10次調査1・2トレンチ）



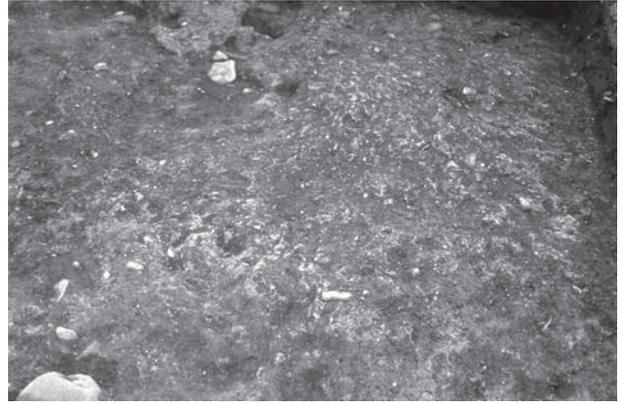
SB100201 (第10次調査2トレンチ)



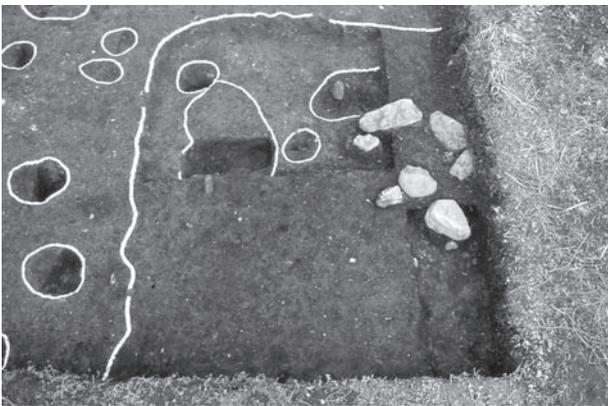
SB100101 土層断面 (第10次調査1トレンチ)



SB100201-SD1 (第10次調査2トレンチ)



SB100201 床面 (第10次調査2トレンチ)



SB100102 (第10次調査1トレンチ)



SK100101・SK100102・SK100106 (第10次調査1トレンチ)



SK100103 土層断面 (第10次調査1トレンチ)



SK100104 土層断面 (第10次調査1トレンチ)



第10次調査3トレンチ全景 (東から撮影)



第13次調査3トレンチ全景 (南から撮影)



SD130301 (第13次調査3トレンチ)



SD130301 土層断面 (第13次調査3トレンチ)



第11次調査11・12トレンチ全景 (南から撮影)



再建期南門基壇1 (第11次調査11トレンチ)



再建期南門基壇2 (第11次調査11トレンチ)



再建期南門基壇礫層 (第11次調査11トレンチ)



再建期南門基壇検出状況 (第11次調査11トレンチ)



再建期南門基壇北側攪乱坑 (第11次調査11トレンチ)



再建期南門基壇断割南北土層断面 (第11次調査11トレンチ)



再建期南門基壇北西隅部石積み1 (第11次調査11トレンチ)



再建期南門基壇北西隅部石積み2 (第11次調査11トレンチ)



再建期南門基壇北西隅部石積み3 (第11次調査11トレンチ)



再建期南門基壇西側整地面断面
南北土層断面
(第11次調査1トレンチ)



第12次調査2トレンチ全景 (北から撮影)



再建期南門基壇北西隅部検出状況 (第12次調査2トレンチ)



再建期南門基壇南西隅部 (第12次調査2～4トレンチ)



再建期南門基壇西辺1 (第12次調査2～4トレンチ)



再建期南門基壇北西隅部 (第12次調査2～4トレンチ)



再建期南門基壇西辺2 (第12次調査2トレンチ)



再建期南門基壇北西隅部石積み1 (第12次調査2トレンチ)



再建期南門基壇北西隅部石積み2 (第12次調査2トレンチ)



再建期南門基壇北西隅部石積み3 (第12次調査2トレンチ)



再建期南門基壇西辺断割東西土層断面 (第12次調査2トレンチ)



SD111201 土層断面 (第11次調査12トレンチ)



再建期南門基壇南東側整地面断割東西土層断面1 (第12次調査4トレンチ)



再建期南門基壇南東側整地面断割東西土層断面2
(第12次調査4トレンチ)



P120406土層断面 (第12次調査4トレンチ)



第13次調査1トレンチ (北から撮影)



第13次調査1トレンチ (東から撮影)



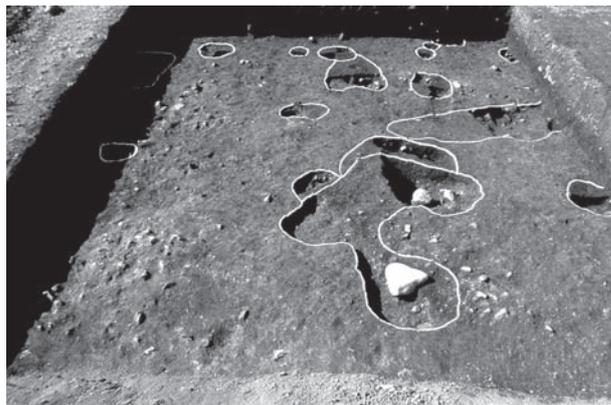
再建期南門基壇南方整地面断割南北土層断面
(第13次調査1トレンチ)



再建期南門基壇南方整地面断割東西土層断面
(第13次調査1トレンチ)



第10次調査10・11トレンチ東側（北から撮影）



第10次調査10トレンチ南側（東から撮影）



SH101001・SH101101（第10次調査10・11トレンチ）



SH101101柱穴並び（第10次調査11トレンチ）



P101035（第10次調査10トレンチ）



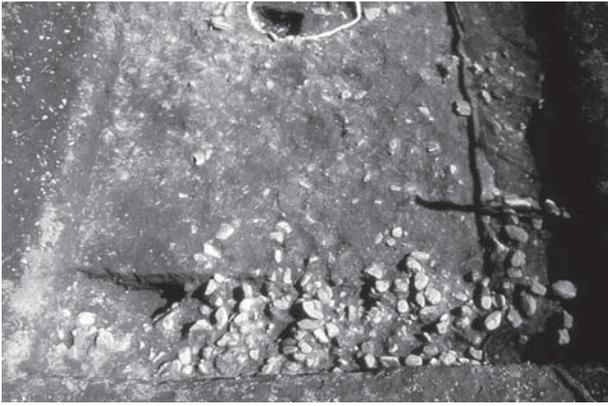
第9次調査5トレンチ全景（東から撮影）



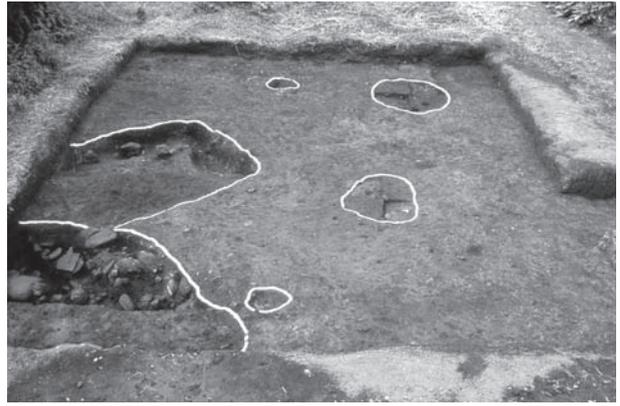
SH100901・SA100901（第10次調査9トレンチ）



SD100901・SD100902（第10次調査9トレンチ）



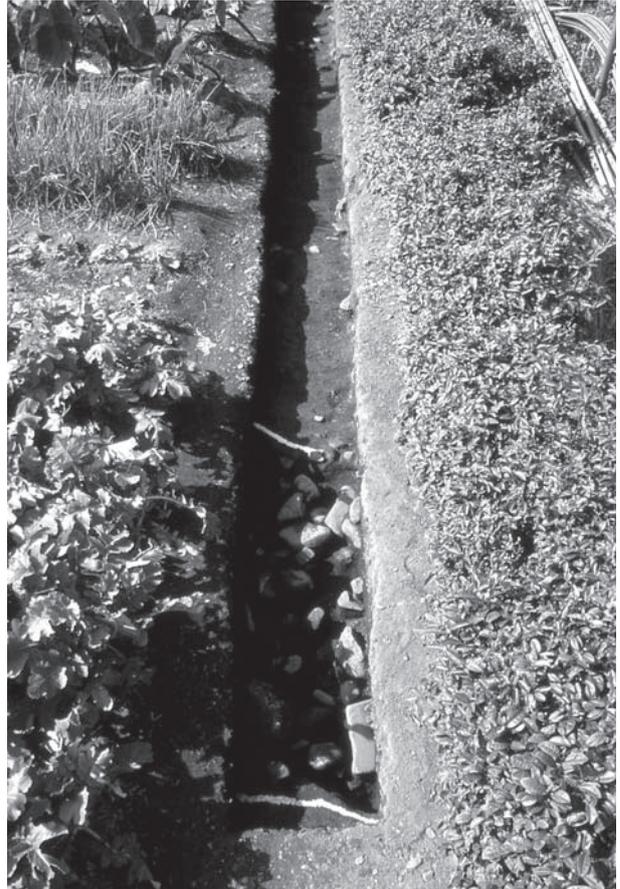
SK090601 (第9次調査6トレンチ)



第10次調査7トレンチ全景 (東から撮影)



第9次調査11トレンチ西側 (西から撮影)



第9次調査11トレンチ東側 (東から撮影)



SD110701 (第11次調査7トレンチ)



SD110701 土層断面 (第11次調査7トレンチ)



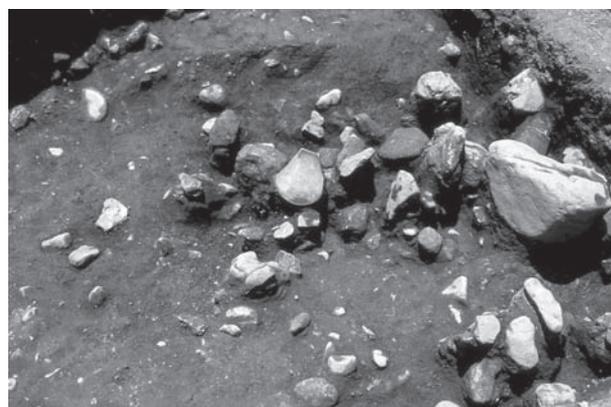
第11次調査7トレンチ全景 (南から撮影)



第12次調査9トレンチ全景 (西から撮影)



SD110701 遺物出土状況 (第11次調査7トレンチ)



SD120901 出土状況 (第12次調査9トレンチ)



SD120901 土層断面 (第12次調査9トレンチ)



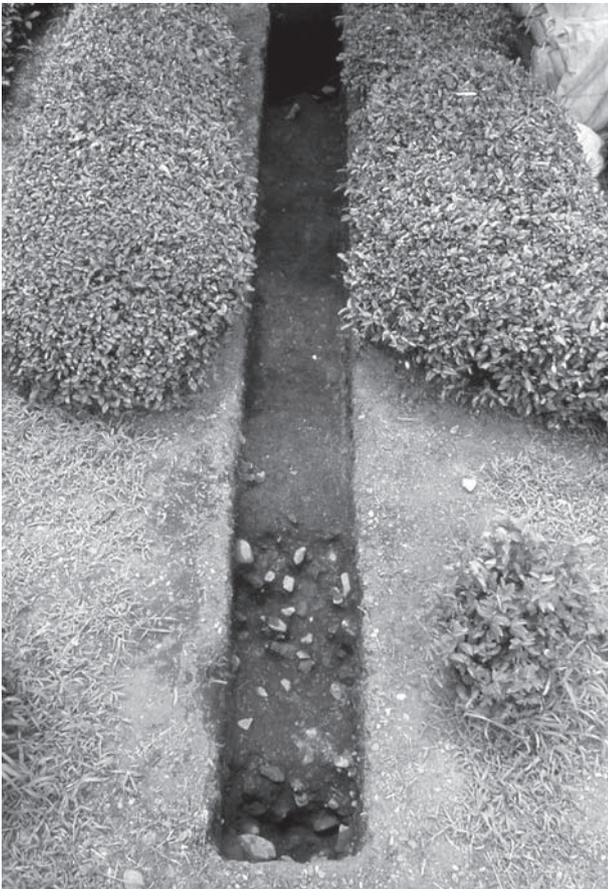
第11次調査8トレンチ全景 (南から撮影)



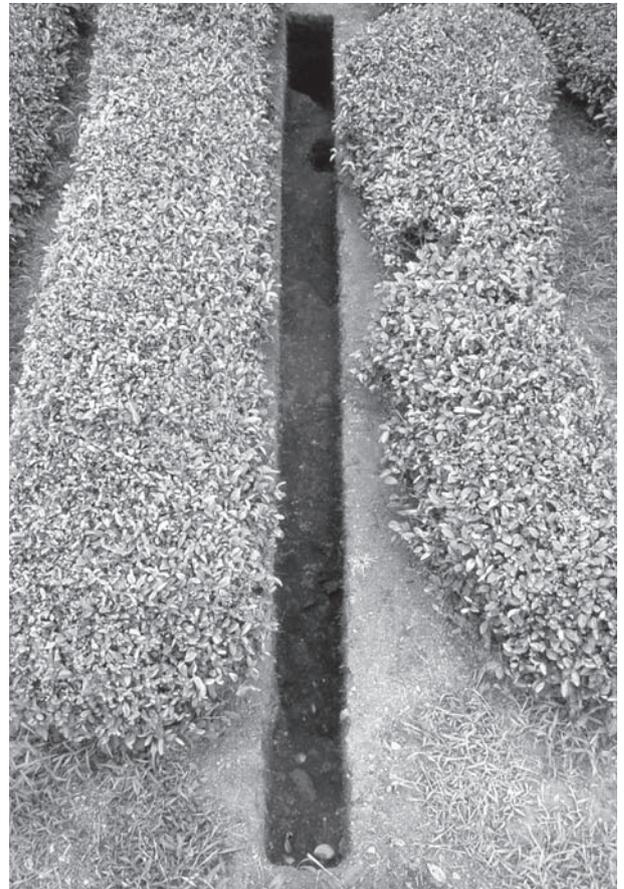
SD120901 (第12次調査9トレンチ)



第11次調査10トレンチ全景 (南から撮影)



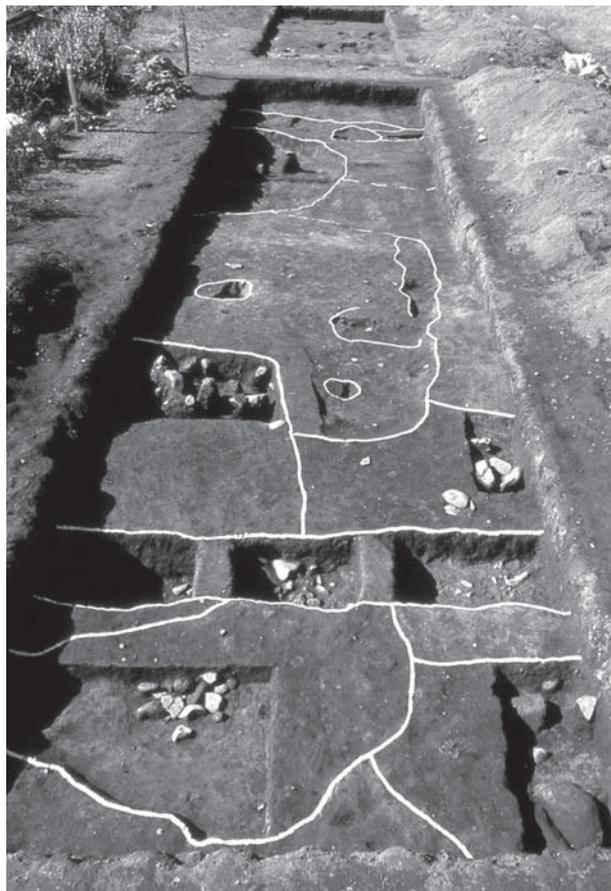
第13次調査4トレンチ全景 (北から撮影)



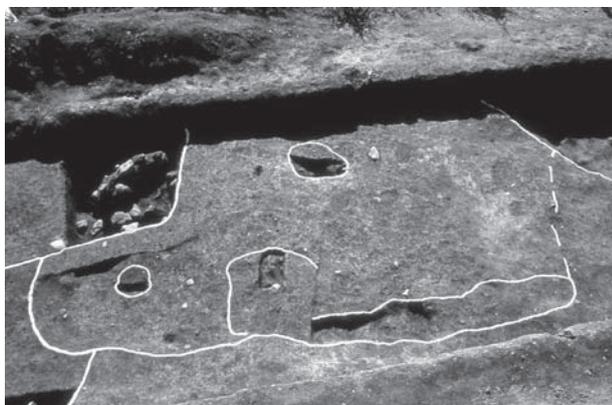
第13次調査6トレンチ全景 (北から撮影)



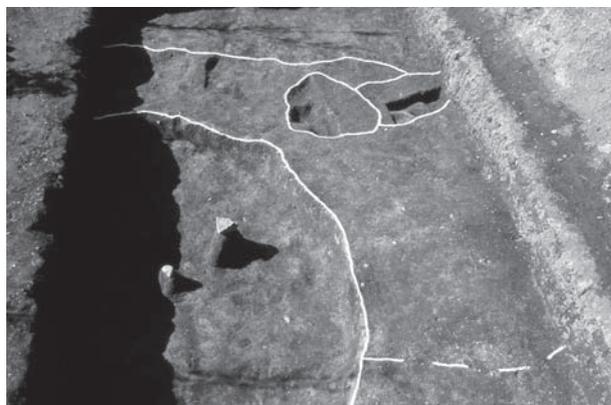
第9次調査7・8トレンチ全景 (西から撮影)



第9次調査8トレンチ全景 (東から撮影)



SB090801 (第9次調査8トレンチ)



SB090802 (第9次調査8トレンチ)



SB090802-SK1・SK2 (第9次調査8トレンチ)



SK090801 ~ SK090805 (第9次調査8トレンチ)



SK090801 土層断面 (第9次調査8トレンチ)



SK090802 土層断面 (第9次調査8トレンチ)



SK090803 (第9次調査8トレンチ)



SK090803 礫検出状況 (第9次調査8トレンチ)



SK090804 土層断面 (第9次調査8トレンチ)



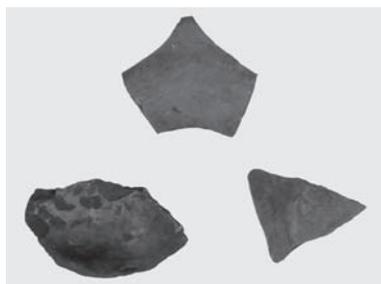
SK090805 土層断面 (第9次調査8トレンチ)



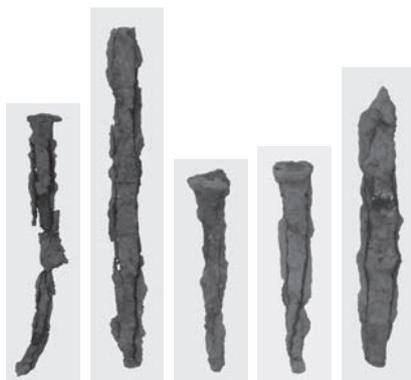
第9次調査9トレンチ南側 (東から撮影)



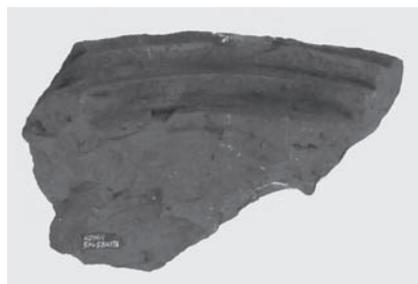
SK090901 遺物出土状況 (第9次調査9トレンチ)



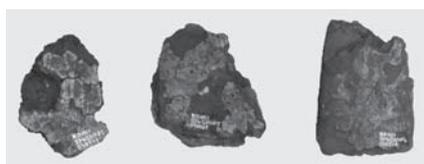
第16図8・10・11



第16図18・19・20・22・23



第18図32凹面



第17図26・27・28表面



第18図33瓦当



第18図34瓦当



第17図26・27・28内面



第18図35瓦当



第18図36瓦当



第18図40凹面



第19図45凸面



第19図45凹面



第18図36凹面



第18図39瓦当



第18図39凸面



第18図39凹面



第19図50外面



第19図50内面



第19図57凸面



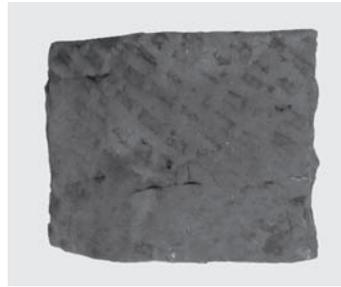
第19図57凹面



第20図58凸面



第20図58凹面



第20図59凸面



第20図59凹面



第21図69凸面



第21図69凹面



第21図71凸面



第21図71凹面



第21図70凸面



第21図70凹面



第22図73凸面



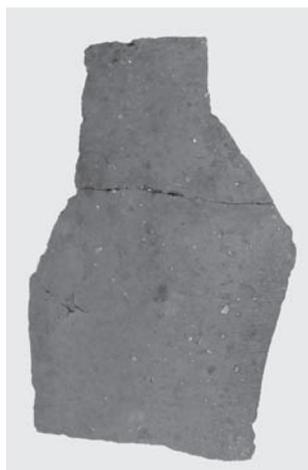
第22図73凹面



第22図76凸面



第22図76凹面



第23図85凸面



第23図85凹面



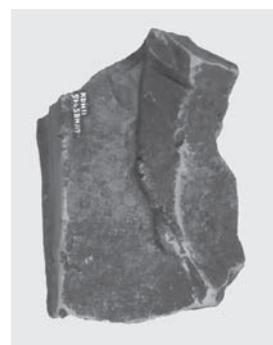
第24図97凸面



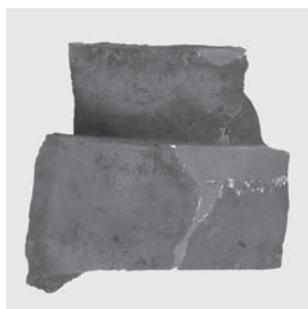
第24図97凹面



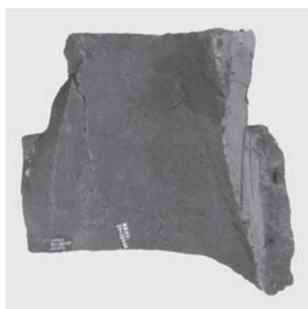
第25図98凸面



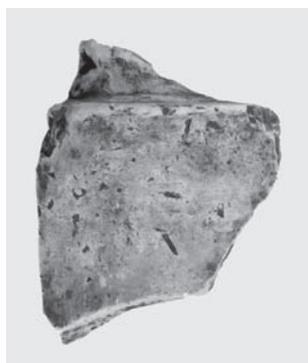
第25図98凹面



第25図99凸面



第25図99凹面



第25図104凸面



第25図104凹面



第25図100凸面



第25図100凹面



第27図118凸面



第27図118凹面



第25図105凸面



第25図105凹面



第26図113凸面



第26図113凹面



第28図121凸面



第28図121凹面



第28図130凸面



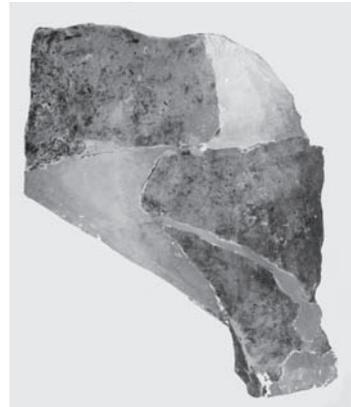
第28図130凹面



第28図129凸面



第28図129凹面



第30図144凸面



第29図140凸面



第29図140凹面



第30図144凹面



第28図128凸面



第28図128凹面



第30図148凸面



第30図148凹面



第33図174凸面



第33図174凹面



第30図146凸面



第30図146凹面



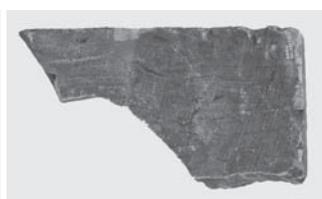
第33図178凸面



第33図178凹面



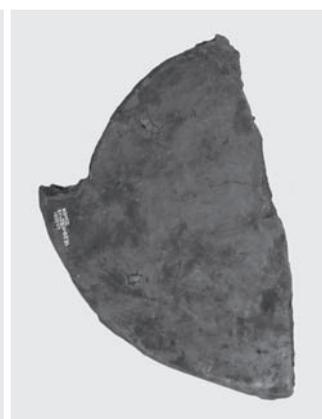
第33図182凸面



第33図182凹面



第36図4瓦当



第36図4瓦当裏面



第36图8凸面



第36图8凹面



第36图9凸面



第36图9凹面



第36图10凸面



第36图14凸面



第36图10凹面



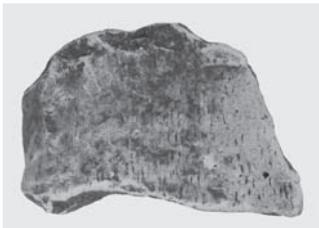
第36图14凹面



第37图17凸面



第37图17凹面



第37图25凸面



第37图25凹面



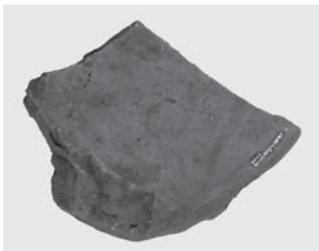
第39图6凸面



第39图6凹面



第39图5瓦当



第39图5瓦当裏面



第39图13凸面



第39图13凹面



第39図7凸面



第39図7凹面



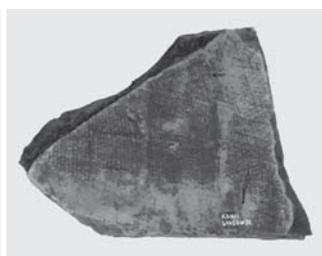
第40図2凸面



第40図2凹面



第40図10凸面



第40図10凹面



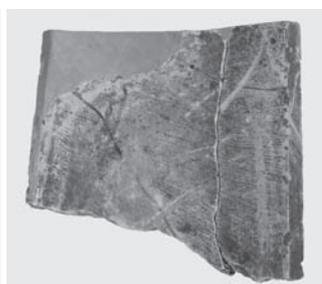
第40図10瓦当



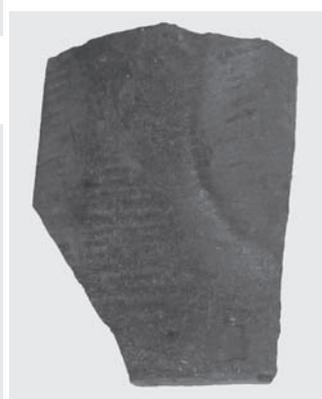
第42図3・4・5



第41図20凸面



第41図20凹面



第43図5凸面



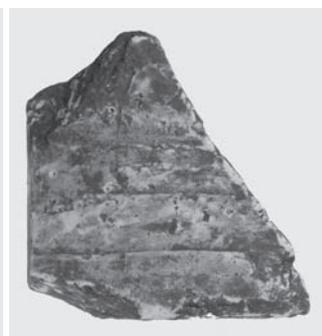
第43図5凹面



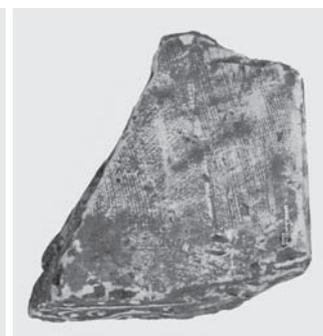
第43図15凸面



第43図15凹面



第43図11凸面



第43図11凹面



第46図16凸面



第46図16凹面



第46図16瓦当



第43図11瓦当



第45図14凸面



第45図14凹面



第46図21凸面



第46図21凹面



第45図15凸面



第45図15凹面



第45図15瓦当



第47図3凸面



第47図3凸面



第47図6凸面



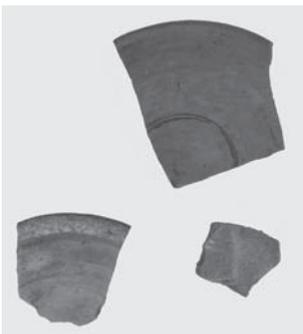
第47図6凹面



第47図9凸面



第47図9凹面



第50図3・4・6



第50図14凸面



第50図14凹面



第51図21凸面



第51図21凹面



第51図22凸面



第51図22凹面



第53図8外面



第53図8



第56図6・7・11・20



第53図9



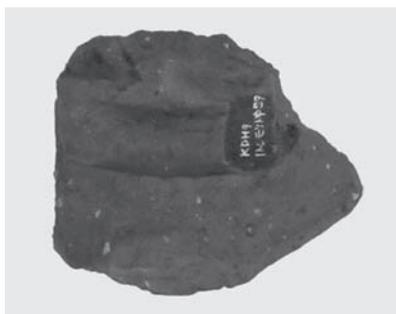
第57図38凸面



第57図38凹面



第56・57図19・21・23・25・
26・28・29・31・32



第59図8瓦当剥離面



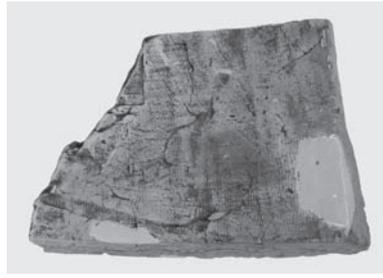
第57図36凸面



第57図36凹面



第59図15凸面



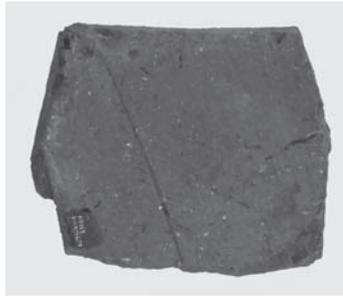
第59図15凹面



第59図15瓦当



第58図39凸面



第58図39凹面



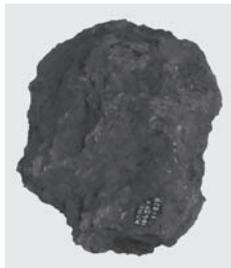
第64図7凸面



第64図7凹面



第63図8表面



第63図8内面



第68図1・2



第68図3



第69図14凸面



第69図14凹面



第76図1・2



第72図2・5・8・9・12凸面



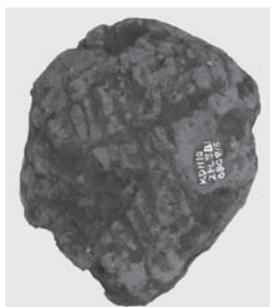
第78図1外面



第78図1内面



第85図5表面



第85図5内面



第91図25凸面



第91図25凹面



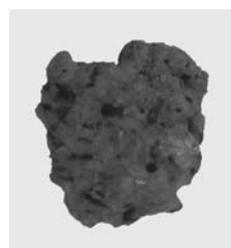
第91図26凸面



第91図26凸面



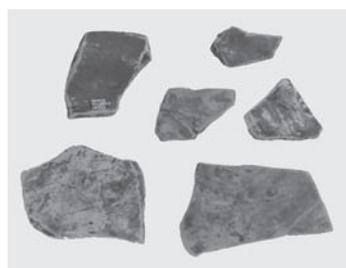
第98図8・9



第99図3



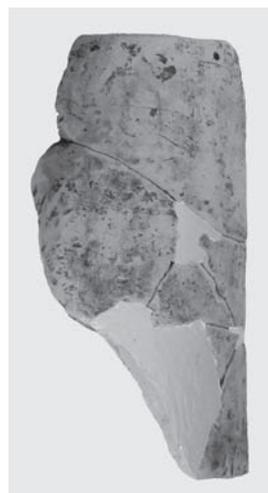
第114図6



第115図4



第115図1



第115図6凸面



第115図6凸面



第115図7凸面



第115図7凹面



第119図1外面



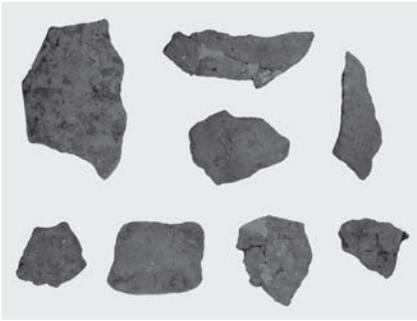
第119図1内面



第17図29～31 第34図187 第52図35 第68図4
第69図8 第71図29～31 第85図8



下田遺跡土坑1土層断面・遺物出土状況



下田遺跡土坑1出土製塩土器



下田遺跡土坑1検出状況



毛ノ鼻遺跡試掘調査1トレンチ



毛ノ鼻遺跡試掘調査2トレンチ



毛ノ鼻遺跡試掘調査3トレンチ



毛ノ鼻遺跡試掘調査4トレンチ



毛ノ鼻遺跡試掘調査5トレンチ



毛ノ鼻遺跡試掘調査6トレンチ



毛ノ鼻遺跡試掘調査7トレンチ



竜沢寺遺跡試掘調査土層断面



竜沢寺遺跡試掘調査地山面検出状況

「美浜町内遺跡発掘調査報告書Ⅲ」

2012年3月30日発行

発 行 美浜町教育委員会
〒919-1192
福井県三方郡美浜町郷市25-25
TEL 0770-32-6709
FAX 0770-32-1115

印 刷 若越印刷株式会社 美浜営業所
〒919-1145
福井県三方郡美浜町金山19-7-1
TEL 0770-32-1230
FAX 0770-23-2288

第2章 下田遺跡（試掘調査）

第1節 遺跡の概要

下田遺跡（福井県遺跡番号 30031）は北緯 35 度 37 分 49 秒、東経 135 度 58 分 59 秒付近、福井県三方郡美浜町佐田小字下田他に所在する。

遺跡は敦賀半島基部の西岸に広がる海岸段丘面の中でも金瀬川河口部の右岸に立地する。対岸の左岸には今市遺跡が立地し、また国道 27 号線を挟んだ南西側の低台地面には毛ノ鼻遺跡が立地するなど、南方の山間部から派生する低台地面から海岸段丘面にかけて縄文、弥生、古墳、そして古代と各時代を通じて密な遺跡分布が見られる。

これまでに下田遺跡における発掘調査事例はないが、遺跡からの土器採集によって縄文時代、古墳時代から律令期にかけての複合遺跡として知られている。かつては海岸線を臨む北側段丘崖の標高 3 m 前後の斜面に遺物包



第 131 図 下田遺跡調査位置図（縮尺 1/2,500）

この電子書籍は、2012年3月31日、美浜町教育委員会が発行した『美浜町内遺跡発掘調査報告書3 興道寺廃寺(第9～13次調査)・下田遺跡・毛ノ鼻遺跡・竜沢寺遺跡』を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、美浜町教育委員会、美浜町立図書館にあります。これ以外にも福井県立図書館、福井県教育委員会、福井県内の市町教育委員会や図書館、近隣の都道府県教育委員会や図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにも寄贈・献本しています。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

この電子書籍の底本作成時に他機関等から写真・図表等の提供を受けている場合がありますが、電子書籍を作成し『全国遺跡報告総覧』にアップロードする上で、複製権、公衆送信権にかかる許諾を受けていないものについては、該当部分を削除し、白抜きとしています。これらの写真等の閲覧は底本にて行ってください。

書名：美浜町内遺跡発掘調査報告書3

発行：美浜町教育委員会

〒919-1138 福井県三方郡美浜町河原市8号8番地（美浜町歴史文化館）

電話：0770-32-0027

電子書籍制作日：令和2年(2020)3月17日